

2022年8月から9月にかけて、岡山理科大学とモンゴル科学アカデミー古生物学研究所によるゴビ砂漠での脊椎動物化石発掘調査が行われました。本年はコロナ禍明けでの調査再開でもあり、野外調査期間を短期間に設定し、ウランバートルの研究所での活動時間を比較的長く設定しました。短期間でのゴビ砂漠調査でしたが、多くの脊椎動物化石を採取でき、今後の分類学的研究等へ活用される予定です。



ゴビ砂漠での調査では物資を全て運ぶ必要があります。そのため食料・飲料を大量にトラックへ積み込みます。



本年度の調査地は東ゴビに位置するバインシレという化石産地です。恐竜を含む多くの脊椎動物化石を産出するモンゴルの上部白亜系の中で、下位の地層（古い時代）とされるバインシレ層の模式地でもあります。



2019年にすでに発見していた化石密集層から碎屑物ごと化石を採取しています。



水を用いて丁寧に堆積物を洗い出し、化石を含むマトリクス（碎屑物）を取り出します。



ウランバートルの研究所で丁寧に化石を取り出していきます。化石を含んでいる砂粒と化石そのものの大きさは同じ程度のため、慎重に化石の有無を確認する必要があります。